

高商連ニュース

■2023年 秋の運動(仲間増やし)

9/18 現在	拡 大					成果 会員
	読者	会員	共済	婦人	青年	
安芸	0	0	0	0	0	0
香美郡	0	0	0	0	0	0
南国	1	1	1	0	0	1
高知	2	2	1	0	0	1
仁淀川	0	0	0	0	0	0
須崎	0	0	0	0	0	0
中村	0	0	0	0	0	0
計	3	3	2	0	0	2

成果会員：読者か会員を拡大した会員(紹介含む)



広島・三原民商 事務局長招き

事務局員交流会

高商連は、9月13日に県下事務局員交流会を開催しました。6民商から13人が参加。東谷会長、山崎会計、藤原理事(高知婦人部長)も参加しました。

今年、「先進民商に学ぼう」と、三原民商事務局長・寺田拓也さん(広島県連事務局長兼任)を招き、午後から講義、討論・交流を行いました。

◆楽しいところに人は集まる◆

寺田局長は、「方針の実践で前進を」と題して講義。「寄せられる要求を大切に、地域にどんな民商をつくるのか、要求あるものを先頭に仲間で支えあってきた。そうした中で、実名、顔写真入りのニュースや民商リーフも発行できている。」「民商リーフには10名ほどの会員が登場する。10人いれば、地域の業者は1人ぐらいは知っている。そうした宣伝活動も含め、過去10年間で、会員は95人から157人に前進した。」「記帳も含めて楽しくやっている。楽しいところに人は集まってくる。そうしたことを役員と相談しながらやっている」と語りました。

講義後は、「参加するという返事があっても来ない。人間不信になり、心が折れそう」などの悩みや事務局員や民商が抱えている課題に答える形で寺田局長がアドバイスし、討論・交流を行いました。

全中連・中小業者

決起集会に参加

9月14日、インボイス制度を中止させようと、全国中小業者決起集会が東京・砂防会館で開催されました。全国から500人が参加。高知県からは入江県連事務局長、牧高知民商事務局長の2名が参加しました。

集会に先立ち、午前中は高知県関係国会議員5名に要請行動を行いました。

中谷元衆院議員(自民)は秘書から、「当日は議員が直接要請をお願いします。」

インボイス それぞれの立場で対応を!

【Aさん：製造小売(免税業者)】

良心市からインボイス登録について文書がきた。『インボイス登録をしていない出品者の商品には★マークを付け、店内入口やレジにその旨表示』とのこと。激変緩和措置を適用しても、年間約15万円の消費税納税に様子を見たいので、「登録は来年から」と返事する。

【Bさん：小売&サービス業(免税業者)】

Aさん同様、良心市からインボイス登録の文書がきた… 激変緩和措置を適用したら、年間5千円ほどの消費税納税になる。一方サービス業の売上先は、インボイスいらないとのこと。良心市にインボイスを出すために課税業者になったら、サービス業の売上も含めて、年間18万円消費税納税することになるインボイス登録は、しない。

Cさん：製造小売(免税業者)

Aさん同様、良心市からインボイス登録の文書がきた… 他のところからも登録のお願いがきている。売上1000万円前後なので、免税の年と課税の年がある。登録している間は課税業者なので、売上が1000万円以下になっても免税に戻れず、消費税納税はキツイが、取引先との関係上仕方ない、登録する。

Dさん：小売(簡易課税業者)

簡易課税なので、仕入経費にかかるインボイスは集めなくてよいが、インボイス請求書の書き方や保管が7年など、実務が煩雑なので、登録は迷っていた。ほとんど個人のお客さんだけ、インボイスが欲しい会社が1件ある。営業さんによると「上の指示で、インボイス出せる他の店に行けと言われるかも?」とのこと。そこの取引が気まずくなるのも困るので、登録する。

Eさん：漁業(一般課税)

今年の確定申告から、10~12月分は、仕入や経費の領収書はインボイスのみ、仕入税額控除できるとのこと。仕入経費の取引先は、ほとんど課税業者なのでインボイスはくれるだろう。でも、どうしてもこの免税業者に頼まないと仕事もある。作業を頼む高齢者にも、インボイスは求めにくい。その分は、仕入税額控除できず、消費税納税額があがるのかあ…

Fさん：サービス業(一般課税)

仕事の一部を外注にしている。インボイスをもらえる外注先と、もらえない外注先がある。仕入も同様の状況。でも、いきなり仕入先や外注先を変えることはできない。今まで一般課税でやってきたが、簡易課税に変更したら、仕入経費のインボイスはいらないと…来年から、簡易課税への変更も検討してみる。

聞きします」と時間調整の電話があり、懇談することができました。当然、インボイス推進の立場ですが、「インボイスには消費税額の記載が必要だが、スナックでは税込金額なので、そんな計算をしてもらえない」「建設業では、職人さんなど小規模事業者と元請業者の関係性が損なわれる」など、中止延期の必要性を訴えました。中谷議員は、「そんな

ことあるんですね。周知不足の指摘には、「丁寧な説明が必要」と回答しました。梶原大介参院議員(自民)の秘書は、「全業種に関わるので、ご一緒にインボイス中止の声を上げていきましょ」と、明るく爽やかに訴えられました。それが印象的で勇気づけられました。

*集会の詳細は「商工新聞」をお読みください。